

すばる ファースト・ライト ギャラリー



写真1 雪景色のすばる望遠鏡ドーム（空撮写真）。スリット開口部からすばる望遠鏡のトップリングが見える。
（撮影／宮下暁彦）

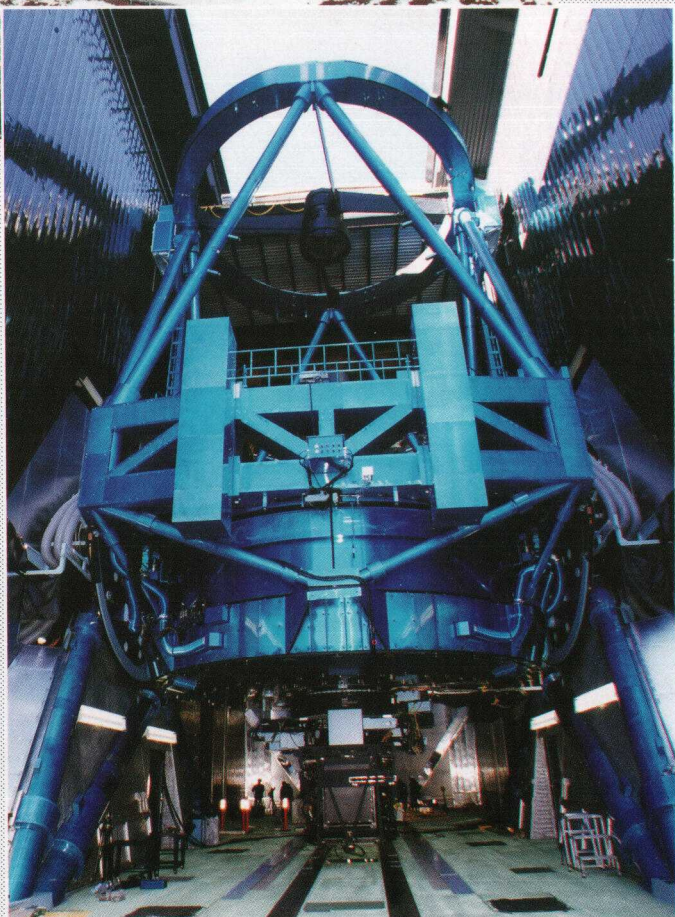


写真2 ドーム内にそびえるすばる望遠鏡。両脇の黒い壁はグレートウォールと呼ばれている。（撮影／宮下暁彦）

すばる ファーストライト ギャラリー

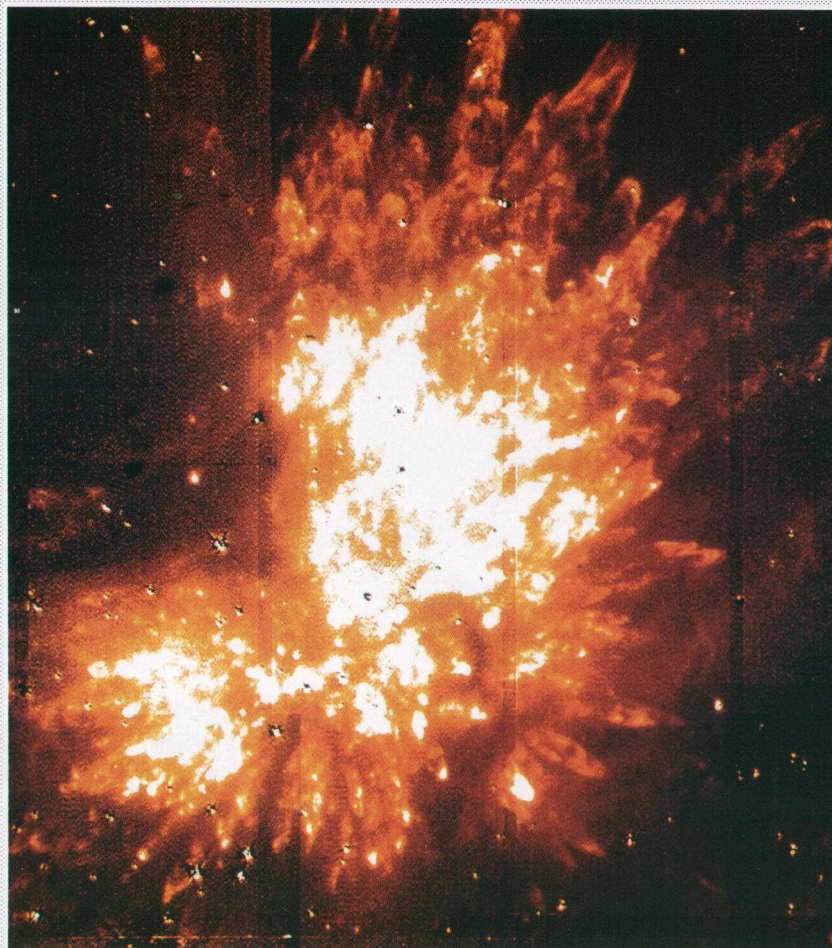


写真3 オリオン BN-KL 領域のクローズアップ。波長 $2.12 \mu\text{m}$ の水素分子輝線狭帯域フィルター画像から連続光成分を差し引いたもの。赤外線カメラ CISCO にて撮影。視野は2分角×2分角。

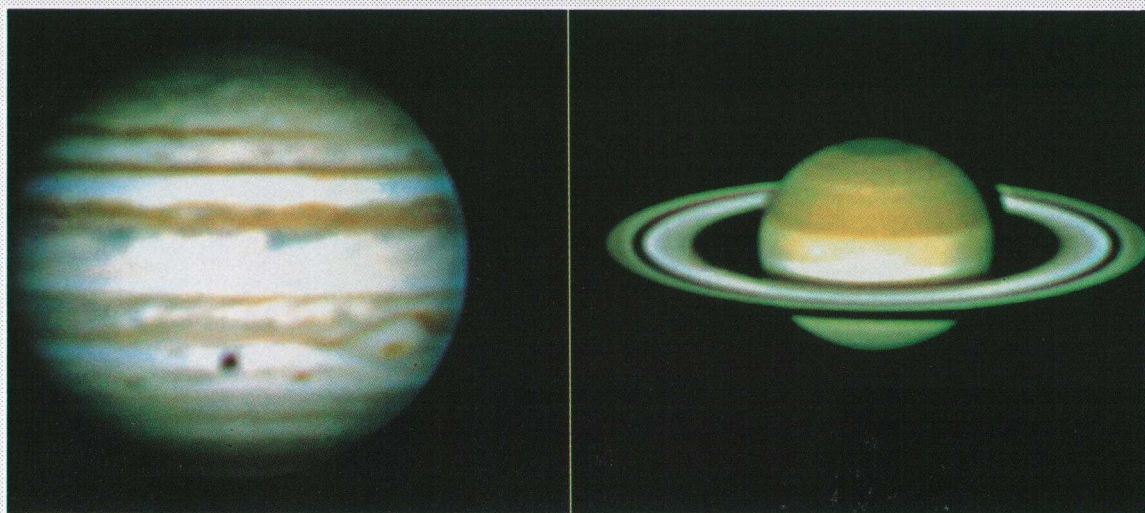


写真4 木星と土星。BVRバンドの各画像を3色合成したもの。すばるカセグレン焦点調整用 CCD カメラ (CAC) にて撮影。木星画像の右下には大赤斑、中央下には第3衛星ガニメデが見える。

すばる ファーストアート ギャラリー

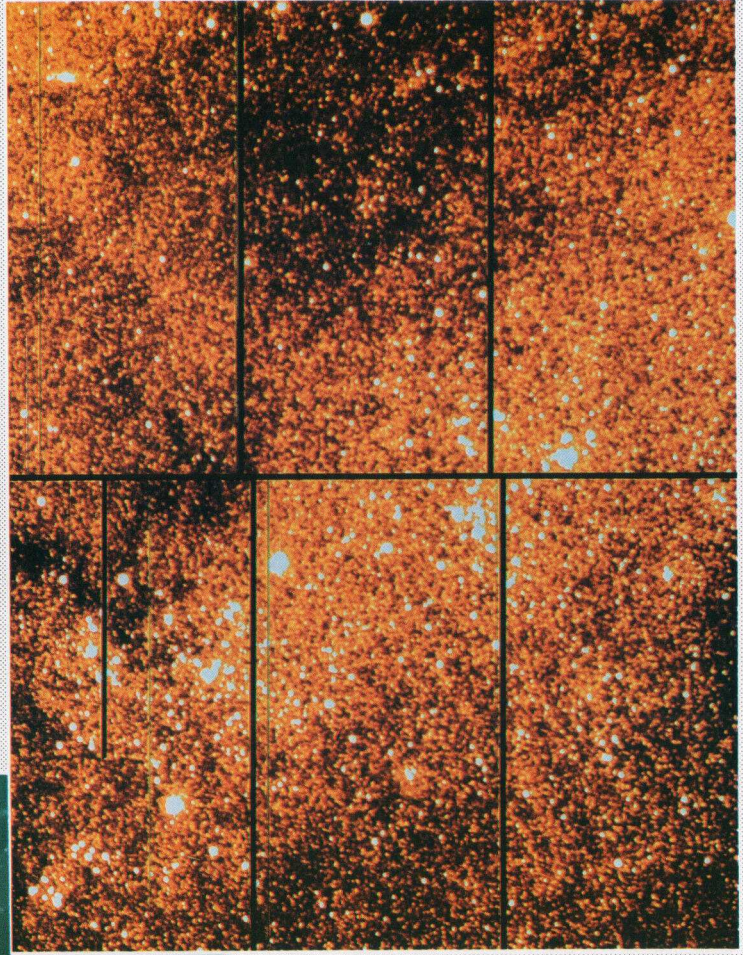


写真5 アンドロメダ銀河の渦状腕中の星形成領域。Rバンドフィルターを使用。2048×4096素子のCCDチップを6個並べたモザイクCCDカメラ (Suprime-Cam) にて撮影。視野は3分角×4分角。

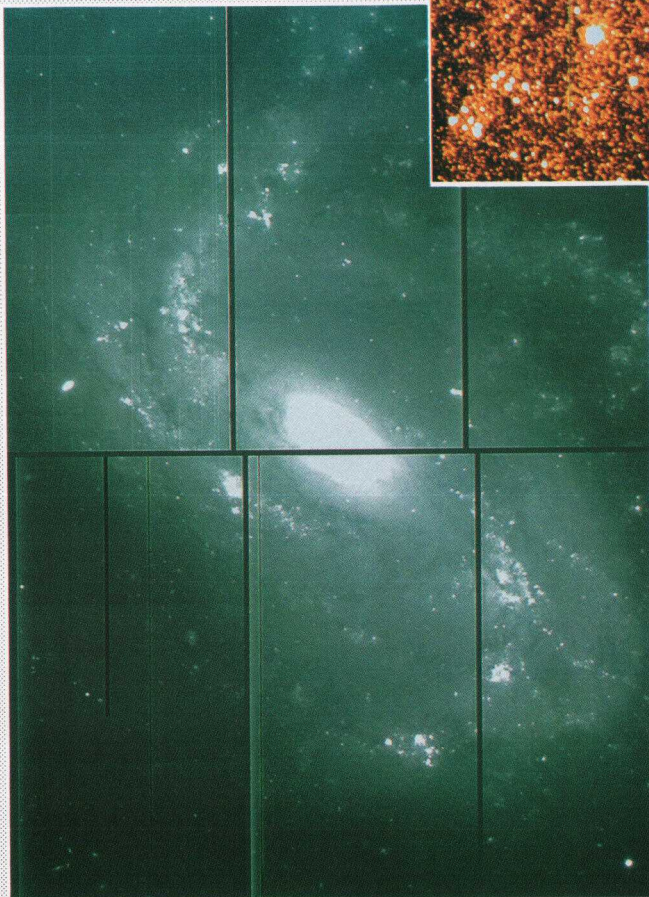


写真6 セイファート銀河 NGC4051 の R バンド画像。Suprime-Cam にて撮影。視野は3分角×4分角。活動的中心核をもつセイファート I 型銀河のひとつ。中心部の棒構造、3本の渦状腕、渦状腕中の星形成領域がひときわ目を引く。

すばる ファースト・ライト ガラリー



写真7 銀河団 Cl 0939+47の可視光・赤外線合成画像。CISCOとSuprime-Camにて撮影。視野は120秒角×145秒角。積分時間は可視光では1時間、赤外線では40分。この銀河団はHST medium distant clusterの一つである($z=0.41$)。

写真8 重力レンズ天体PG1115+080の赤外線・可視光合成画像(左)と赤外線画像(右)。CISCOとSuprime-Camにて撮影。遠方の($z=1.72$)クエーサーが、重力レンズとして作用している近くの($z=0.29$)銀河のまわりに、4個に分裂して見える。銀河から各クエーサー像までの角距離は約1秒角しかないが、容易に分離されている。

